9/30 県福

コロナ付き合い方
福井の院長が説明
学習会

新型コロナウイルスの学習会が二十九日、福井市の県教育センターであった。講師を務めた光陽生協クリニック（同市光陽三）の平野治和院長は「医療は日進月歩で治療薬やワクチンは必ずつくられる。お互いを思いやる日常を大切にして気長に待つ必要がある」と、長丁場が予想される新型コロナとの「付き合い方」を説いた＝写真。

市民団体「平和・民主・革新の日本をめざす福井県の会」が開催し、約五十人が参加。検温や手指消毒、マスクの着用など感染防止対策を講じた。

平野さんは、新型コロナは発症二日前から他の人に感染させる可能性があり、十日ほど続くと説明。「症状が出る前から人に感染性を持ち、感染性が長く続くことが非常にやっかいだ」と話した。感染防止対策には、手洗いや「三密」の回避、マスクの着用を挙げた。

感染者には誹謗中傷を受ける人がいる。平野さんは、不安な心理や感情のコントロール不全が差別や偏見の一つの原因ではないかとした上で、「誰もが感染するかもしれないとの認識を持つことが大事で、不安や（否定的な）陰性感情を誰もが持つ感情だと認める必要がある。自分が感染者や濃厚接触者の立場だったらどう感じるだろうか、と想像力を働かせることも重要」と語った。（鈴木啓太）